

## CEATEC 2020【オープニングスペシャル】

### プロスポーツ業界×最新テクノロジーで“スポーツ観戦”のニューノーマルを創る！

ファシリテーター：ヤマハ株式会社 SoundUDグループリーダー

SoundUD推進コンソーシアム事務局長 瀬戸 優樹氏

パネリスト：DAZNシニアバイスプレジデント コンテンツ 水野 重理氏

：サガン鳥栖 梅本 昌裕氏

：ジュビロ磐田事業戦略本部長 柳原 弘味氏

：福島ユナイテッドFC取締役 営業部長 井上 敦史氏

：阪神タイガース事業本部兼事業統括営業部次長 大西 邦佳氏

：サンロッカーズ渋谷事業統括部部長 宮野 陣氏

：オービックシーガルズチーム代表兼GM 並河 研氏

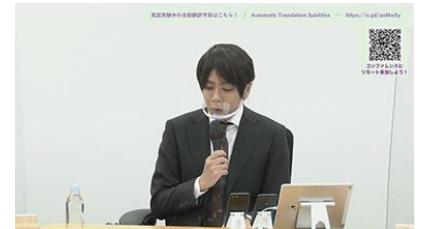
：新日本プロレスリング株式会社 経営企画部長 New Japan Pro-Wrestling of America Inc. CEO  
株式会社ブシロード 執行役員 大張 高己氏

：清水エスパルス広報部（元プロサッカー選手） 高木 純平氏

：ヤマハ株式会社 SoundUDグループ 主事 SoundUDコンソーシアム 部会長 岩田 貴裕氏



令和2年10月20日、アジア最大級のIT技術とエレクトロニクスの国際展示会「CEATEC 2020」において、ヤマハ株式会社によるオンラインパネルディスカッションが開催されました。プロスポーツ関係者が参加し、新しい生活様式に対応しながら観戦を楽しむリモート応援システム「Remote Cheerer（リモート・チアラー）」の活用事例が紹介され、活用の様子や効果などが紹介されました。このRemote Cheererは、様々な事情により会場に足を運ぶことができない方でも、会場のファンやサポーターと一緒に声援を会場に送ることができるシステムで、音声通信技術であるSoundUD技術が活用されています。



SoundUDとは、言語、聴力の不安のない社会実現に向けた、音のユニバーサルデザインのことです。パネルディスカッションでは、視聴した参加者もアプリを使用してアンケートの回答や拍手を送るなど、Remote Cheererの参加体験ができました。



新型コロナウイルス感染症の影響を、最も大きく受けた業界の1つがプロスポーツ業界です。第一部のパネルディスカッションでは、プロサッカー界の関係者が参加し、新型コロナウイルス感染症の影響による負の部分だけでなく、この時期だからこそその新たな気づきや、スポーツ観戦の新たなスタイル、会場に来ることができない新しいファン層の開拓など、最新テクノロジーによる新たな可能性という、ポジティブな意見が交わされました。

スポーツ専門の動画配信サービスを行うDAZNの水野氏は、「SNSを通じてサッカーファンから要望を集めて新しいコンテンツを立ち上げたり、Jリーグ選手の日常を選手自身が動画撮影し配信したことで、ファンと選手の距離が近くなり新たな形の「ファンと作るスポーツ視聴」に繋がった。」と話します。ジュビロ磐田事業戦略本部長の柳原氏は、「リアルな場所が制限された中で何ができるかを選手と共に考え、その結果、選手とサポーターによるオンラインのミーティングや、試合後の記者会見をサポーター向けに配信したことで「オンラインの重要性」が痛感できた。」と言います。



「Remote Cheererによって、サポーターの熱量を可視化できた。」と話すのはサガン鳥栖の梅本氏です。観客がいなかったためにその場で感じるできない盛り上がりも数値としてわかるため、今後はデータを

活用しさらに盛り上げる仕組み作りに取り組みます。「Remote Cheererには、誰でもどこからでも参加できる良さがある」と話すのは福島ユナイテッドFCの井上氏です。井上氏は「県外にいるサポーター達が会場に来ることができなくなったことで、中継を通してより深く試合会場の雰囲気や福島のことに関心を馳せ、地元を感じるきっかけ作りになったのではないかと話します。

さらに、Remote Cheererの注目すべき点や、最新テクノロジーによるニューノーマルなどのテーマでディスカッションが行われ、「新しいコミュニティ作りのプラットフォームとなる可能性を感じさせる。」といった、今後をさらに期待させる意見が出され、第一部が終了しました。

第二部ではRemote Cheererの開発者であるヤマハ株式会社の岩田氏が、プロスポーツ関係者を直接訪問し、トークセッションを行った動画が紹介されました。

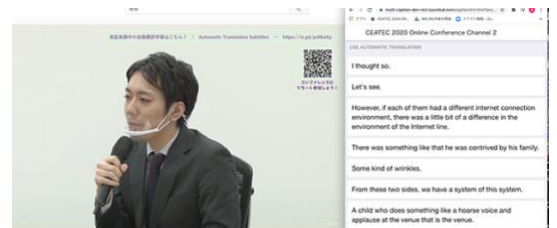
「Remote Cheererは、導入も簡単でコロナ禍において活用する価値がある。」と話すのはプロ野球、阪神タイガースの大西氏です。阪神タイガースでは導入するにあたり、応援の名物である応援バットの音を再現するなどカスタマイズを行い、より臨場感のあるリモート応援を目指しました。

「会場に来ることができないファンが多い中、また、会場にいるファンも声を出せない環境の中でRemote Cheererを活用し、ファンの声を選手に届け、会場が一体となる雰囲気を作りだせた。」と言うのはプロバスケットボール サンロッカーズ宮野氏です。また、アメリカンフットボールチーム オービックシーガルズの並河氏も「攻守の切り替えやタッチダウンの時に声を届けることで試合会場が一体となる雰囲気を、テクノロジーを活用して作り上げたい。」と話しました。

悪役に対して会場から沸き上がるブーイングに活用したのは、新日本プロレスリングです。「プロレスファンが求めているものとRemote Cheererのテクノロジーがマッチした。」と大張氏は話し、今後も選手とファンがより楽しめる応援方法を目指します。

海外から日本へ、Remote Cheerer を使い声援を送る試みを行ったのはJリーグの清水エスパルスです。高木氏はサッカー界に限らず、従来の応援方法と新しい応援方法が融合し、さらに新しいスタイルが生まれることに期待を寄せています。

最後に、Remote Cheererの開発責任者であるヤマハ株式会社の岩田氏が視聴者からの質問に回答する時間が設けられました。同時にSoundUD技術を活用した多言語で字幕を表示する試みも行われました。ファシリテーターの瀬戸氏からは、ヤマハ株式会社では音と情報を連携するSoundUD技術を使った音のユニバーサル化について、この多言語字幕を提供する取組に続く音のユニバーサル化の第二弾となるのが、「Remote Cheerer」と紹介し、岩田氏は、「日本が一体となってリモート応援という新しいスタイルを新しい応援文化として発展させたい。」と話しました。



(令和2年11月作成)

## 問い合わせ先

ヤマハ株式会社 コーポレート・コミュニケーション部

新川 兼司 (あらかわ けんじ)

Tel: 03-4405-9509

Email: kenji.arakawa@music.yamaha.com

<https://soundud.org>